

GOD WITH US

Part 11: LATER LETTERS

Message 5 – Hebrews

The Supremacy of Christ

Hebrews 1-4

神はわれらと共に

パート11：後の手紙

第5メッセージ-ヘブル人への手紙

キリストの至高性

ヘブル人への手紙第1-4章

はじめに

ヘブル人への手紙は、新約聖書の中で最も深く、難解な本の一つです。旧約聖書の宗教制度の深い理解と私たちの大祭司であり、贖いの犠牲となってくださったキリストの人性と御業をいかに予見したかに基づく、多くの神学を含んでいます。おそらくこの本は、ネロの厳しい迫害の直後、イエス様への信仰から後退しつつあった、ユダヤ人キリスト者に向けて記されたものと考えられます。著者として、パウロ、アポロ、バルナバ、シラス等の名前が提案されてきましたが、聖書学者たちの間でも明確にされていません。著者は獄中にいて（ヘブル人13章18,19,23節）、おそらくローマ帝国全体に散らばっていたユダヤ人キリスト者たちに、イエス様への信仰を捨てないように、彼らの先祖が歴史の中で強い信仰の模範を示したように、信仰によって忍耐強くあることを奨励しています。

著者は謎ですが、この手紙の受取人を推測することは難しくありません。著者が綴った様々な句に注目することで、読者の霊的状态を察することができます：「こんなに尊い救をなおざりにする…」(2:3)、「生ける神から離れる…」(3:12)、「罪によって、心をかたくなにする…」(3:13)、「神の安息に…はいりそこなう者が…」(4:1)、「耳が鈍くなる」(5:11)、「堅い食物ではなく、乳を必要としている…」(5:12)、「動揺しないで」(10:23)、「集会をやめる…」(10:25)、「自分の持っている確信を放棄…」(10:35)、「弱り果てて意気そそうしない」(12:3)。ローマの圧力によって、キリスト者であることがますます困難になり、その結果、一部の人々は命を守るために、「合法的な」ユダヤ教に回帰しようとしていました。

この本の主な論拠は、イエス・キリストは、天使やモーセやあらゆる旧約聖書の祭司や預言者よりもまさるということです。そして、罪の贖いと赦しの新しい契約は、それを指し示す律法や儀式や象徴を含む旧約聖書の契約よりもまさっています。「より良い」という言葉は、この本の中で13回出てきます。テーマを一言で言えば、キリストの優越性は忍耐強い信仰を要します。偉大な信仰の模範の数々(第11章)は、人生における悩みや試練の中で、神の約束に希望をしっかりと持ち続けることがどの様なことを示しています。

概要

1. 私たちが告白する優れた使徒

- A. 預言者より優れたお方：1：1-3
- B. 天使よりも優れたお方：1：4-2:18
- C. モーセより優れたお方：3：1-4:13

2. 優れた大祭司

- A. 神権の説明：4：14-5:10
- B. 無視された神権：5：11-6:20
- C. 神権の比較：7：1-10:18
- D. 用いられた神権：10：19-39

3. 優れた信仰

- A. 例証された忍耐強い信仰：11
- B. 励まされる信仰による忍耐：12
- C. 信仰の証拠：13

1. 私たちが告白する優れた使徒：1：1-4:13

著者は、この手紙の最初の冒頭で、イエス様は神ご自身の完全で最高にして最後の啓示であり、預言者、天使、モーセ等の他の御使いよりもまさっていると主張しています。重要な節は、3章1節のイエス様は、「私たちが告白する信仰の「使徒」と呼ばれています」という箇所です。イエス様は、父なる神から救いに関する究極の最後の啓示をもって来られ

たので、私たちはそのみ言に耳を傾け続けなければなりません。

3:1 そこで、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たちよ。あなたがたは、わたしたちが告白する信仰の使者また大祭司なるイエスを、思いみるべきである。（ヘブル人3：1）

A. キリストは、旧約の預言者よりもまさっています：1：1-3

この手紙には前書きがなく、著者は、いきなりキリストの優越性の説明に入ります。そして、キリストは人類に対する神の最後の「啓示」であり、旧約聖書の預言者を通して神が過去に語られたあらゆる方法をはるかに超えておられると主張しています。

1:1 神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、**1:2** この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。**1:3** 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

（ヘブル人1：1-3）

「**1:2** この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。」 イエス様は、人類に対する神の最後のクラ

イマックスの啓示です。そして、イエス様とは、「万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれた」お方です。ここは、第一ヨハネと第一コリントとともに、キリストの性質についての最も高尚で重要な記述です。この箇所を読むと、イエス様が神であるという事実を見逃すことは不可能です。

つまり読者は、イエス様から漂流して、古く、より劣る形の神の啓示に回帰するのではなく、イエス様に耳を傾け、そのみ言に耳を傾け続けなければならないということです。

あなたの注意を引く「声」は誰の声ですか？ イエス様が人類に対する神の最後の「み言」であり、他のどの啓示よりも完全な神の姿を与えてくださるなら、その御声が注意を引くべきではないでしょうか？ 第2章1節の警告に注意しましょう。「わたしたちは聞かされていることを、いっそう強く心に留めねばならない。そうでないと、おし流されてしまう。」父なる神が御子なる神を通して与えてくださったみ言に、より注意を払うために何ができますか。

B.キリストは天使よりもまさる：1：4-2:18

当時のユダヤ人は、天使を崇拝はしなかったものの、神の僕や使者たちを非常に重視していました。天使たちがシナイ山のモーセに神の律法を与えたと信じられていました（ヘブル2：2；ガラテヤ3：19；使徒7：38,53；申命記33：2）。しかし、イエス様が天使よりもまさるなら、イエス様の教えにこそ、最大の注意が払われるべきです。神ご自身であるイエス様が仲介してくださった新約聖書の制度が存在するのに、なぜ天使によって仲介された旧約聖書の制度に回帰するのでしょうか？ 一連の旧約聖書の聖句が神の子イエスに言及しているものとして引用されており、いずれもイエス様が神であり、天使よりもはるかに優れていることを示しています。

2:7 わたしは主の詔をのべよう。主はわたしに言われた、「おまえはわたしの子だ。きょう、わたしはおまえを生んだ。
(詩篇2：7)

7:14 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となるであろう。もし彼が罪を犯すならば、わたしは人のつえと人の子のむちをもって彼を懲らす。(第二サムエル7：14)

45:6 神から賜わったあなたの位は永遠にかぎりなく続き、あなたの王のつえは公平のつえである。**45:7** あなたは義を愛し、悪を憎む。このゆえに神、あなたの神は喜びの油をあなたのともがらにまさって、あなたに注がれた。(詩45：6, 7)

102:25 あなたはいにしえ、地の基をすえられました。天もまたあなたのみ手のわざです。102:26 これらは滅びるでしょう。しかしあなたは長らえられます。これらはみな衣のように古びるでしょう。あなたがこれらを上着のように替えられると、これらは過ぎ去ります。102:27 しかしあなたは変ることなく、あなたのよわいは終ることがありません。

(詩篇 102 : 25 - 27)

110:1 主はわが主に言われる、「わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ」と。

(詩篇 110 : 10)

*上記の詩篇 45 篇と 102 篇では、イエス様が直接「神」、または「主」と呼ばれていることに注意しましょう。彼の神性の明確な言及です。

-イエス様にいっそう強く心に留めなければならない。

著者はここで、深刻な警告の一つを発しています。イエス様のご性質のために、私たちは、イエス様に耳を傾け続けなければならない、漂流してはいけません。

2:1 こういうわけだから、わたしたちは聞かされていることを、いっそう強く心に留めねばならない。そうでないと、おし流されてしまう。2:2 というのは、御使たちをとおして語られた御言が効力を持ち、あらゆる罪過と不従順とに対して正当な報いが加えられたとすれば、2:3 わたしたちは、こんなに

尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、2:4 さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。(ヘブル人 2 : 1 - 4)

ギリシャ語の「漂流」という言葉は、不注意に滑り落ちてしまうことを意味します。例えば、雪が屋根から滑り落ちたり、食物が气管に滑り落ちたりする様な状況に用いられます。ここでは、私たちがキリストに与えられた啓示を不注意に無視することによって、徐々にキリストから漂流していく危険性を意味しています。キリストより劣る天使によって仲介された神の古い啓示(シナイ山で与えられたモーセの律法)がイスラエルの国の契約として、信頼性が証明されたのなら、神の御子を通して語られたこの最後の啓示は、それを聞いて反応したすべての人にとって、それ以上に信頼できる契約と言えるのではないのでしょうか。

日々、イエス様と過ごすことによって、常にイエス様との関係を強化することが重要です。イエス様とのあなたの関係を評価してみましょう。あなたはイエス様と定期的に時間を過ごしておられるのでしょうか？ イエス様との歩みを強めるために何ができるのでしょうか。イエス様から漂流しておられないのでしょうか？

-イエス様が人とならなければならなかった理由。

この部分は、「イエス様は天使よりもまさっておられる」という議論に関する重要な余談です。イエス様の人性が彼を天使より「劣」らせ、イエス様の苦難と死の形は、神からの高揚ではなく、神による屈辱を描写していると主張する人たちがいます。著者は、イエス様が人として生き、死ぬために「自分を低くする」必要があった理由を説明します。詩篇8篇は、もともと人間（「人」）の尊厳を祝う詩でした。著者は、それを引用して、私たちが贖うことが可能になるために「しばらくの間、天使よりも低くされた」（9節）究極の人、イエス様と言及しています。

2:6 聖書はある箇所、こうあかししている、「人間が何者だから、これを御心に留められるのだろうか。人の子が何者だから、これをかえりみられるのだろうか。2:7 あなたは、しばらくの間、彼を御使たちよりも低い者となし、栄光とほまれとを冠として彼に与え、2:8 万物をその足の下に服従させて下さった」。「万物を彼に服従させて下さった」という以上、服従しないものは、何ひとつ残されていないはずである。しかし、今もなお万物が彼に服従している事実を、わたしたちは見ていない。（ヘブル人2：6－8、詩篇8篇の引用）

イエス様は現在、父の右座に座っておられるので、未だ万物が彼の足の下に服従している事実を私たちは見ていません。「彼の敵が彼の足のための足台になるまで待っている」

（ヘブライ 10:13）。では、なぜイエス様は最高に栄誉ある天国の位置を離れ、謙遜になられ、苦しまれ、死なれるためにこの世に来られたのでしょうか。答えは次の通りです。

2:9 ただ、「しばらくの間、御使たちよりも低い者とされた」イエスが、死の苦しみのゆえに、栄光とほまれとを冠として与えられたのを見る。それは、彼が神の恵みによって、すべての人のために死を味わわれるためであった。2:10 なぜなら、万物の帰すべきかた、万物を造られたかたが、多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであったからである。

（ヘブル2：9，10）

イエス様は、私たちのために死なれ、苦しまれる必要がありました。私たちの救いの創始者になるために苦しみを経験する必要がありました。要するに、人類を贖うために、人類の一員、「私たちの兄弟」になる必要がありました。

2:11 実に、きよめるかたも、きよめられる者たちも、皆ひとりのかたから出ている。それゆえに主は、彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされない。（詩篇2：11）

旧約聖書には、「親族の贖い主」の概念があります。ルツ記に登場します。イスラエルの民が苦難に陥った場合、その人を貧困や苦難から救い出すのは家族（親族）の責任でした。責任は、最も近い親戚である「親族の贖い主」（家族からの贖い

主)に委ねられました。したがって、私たちの真の贖い主となつてくださるために、イエス様は「私たちの兄弟」、または「私たち人類の家族の一員」となる必要がありました。

次の箇所は、イエス様が真の肉と血を引き受けなければならなかった(つまり、人類の一員になった)理由をいくつか述べている重要箇所です。

2:14 このように、子たちは血と肉とに共にあずかっているので、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、**2:15** 死の恐怖のために一生涯、奴隷となっていた者たちを、解き放つためである。**2:16** 確かに、彼は天使たちを助けることはしないで、アブラハムの子孫を助けられた。**2:17** そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。**2:18** 主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。

(へブル人2:14-18)

イエス様は…、

-真の人間の死を体験されるために肉と血を分かち合う必要があった。

-死を打ち破ることによって邪悪な者の力を壊すために死ぬ必要があった。

-私たちの慈悲深く忠実な大祭司になることを可能にするために、私たちと同じ様に造られる必要があった。

-神と人類の間を仲介してくださるために死ぬ必要があった。

-罪の償い(満足のいく犠牲)を捧げるために死ぬ必要があった。

-私たちが誘惑されたときに、イエス様があわれんでくださり、助けに来ることができるために、ご自身も誘惑を経験される必要があった。

ここには祝うべきことが沢山ありますが、その中でも特に、イエス様が誘惑を経験された私たちのあわれみ深い大祭司であるということは喜ぶべき事実です。私たちが誘惑されたとき、イエス様は非難されないと知ることは大きな慰めです。ご自身が誘惑を知っておられるので、私たちをあわれんでくださるのです。厳しく、不屈な裁判官ではなく、試練の時に駆けつけ、慈悲深く忠実な大祭司、イエス様がいてくださるのです。

c.神の御子イエス様はモーセよりも偉大なお方:3:1-4:13

この本の著者は、旧約聖書の預言者や天使と比較して、キリストの優越性を擁護してきました。ここで、旧約聖書の中で、ユダヤ人に最も尊敬されている人物であり、イスラエル

の民に神の律法を与えた、モーセに比較が向けられます。モーセほど、イスラエルの民に尊敬された人物、「使徒」（使者）はいませんでした。しかしイエス様は、そんなモーセよりも偉大なお方であると宣言しています。

イエス様とモーセのこの比較の中で、著者は古代イスラエル（モーセを通して神のみ言に耳を傾けなかったため、約束の地の「安息」に入ることができなかった）と現在の読者（イエスを通して神のみ言に耳を傾けることができず、神との関係の「安息」と約束された永遠の地に入ることができない危険にさらされています。）を比較します。

ここの冒頭の聖句は、ヘブライ人への手紙全体にふさわしい「重要な聖句」です。神と人類との契約の優れた「使徒」（使者）であり「大祭司」（仲介者）であるイエス様を「熟考する」ようにと著者が人々に呼びかけています。

3:1 そこで、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たちよ。あなたがたは、わたしたちが告白する信仰の使者また大祭司なるイエスを、思いみるべきである。（ヘブル人3：1）

-イエスとモーセ-2人の家の建設者。

ここで比較がイエス様とモーセに向けられます。

3:2 彼は、モーセが神の家の全体に対して忠実であったように、自分を立てたかたに対して忠実であられた。**3:3** おおよそ、家を造る者が家そのものよりもさらに尊ばれるように、彼は、モーセ以上に、大いなる光栄を受けるにふさわしい者

とされたのである。**3:4** 家はすべて、だれかによって造られるものであるが、すべてのものを造られたかたは、神である。**3:5** さて、モーセは、後に語らるべき事ながらについてあかしをするために、仕える者として、神の家の全体に対して忠実であったが、**3:6** キリストは御子として、神の家を治めるのに忠実であられたのである。もしわたしたちが、望みの確信と誇とを最後までしっかりと持ち続けるなら、わたしたちは神の家なのである。（ヘブル人3：2-6）

マタイ12章で、イエス様は「～よりも大いなる者がここにいる。」と3回言われました。それは神殿よりも大きく、預言者よりもまさり、ソロモン王よりも大いなる者です。同様に、ヘブル人への手紙第3章で、著者は、モーセよりも偉大な者がここにいると主張しています。

モーセは、家の建設者に例えられます。イエス様は、家そのものに例えられます（イエス様の体、地上の教会、私たち信者が属する「家」です）。モーセは「イスラエルの国家」を建てるために忠実に神に仕えました。イエス様は、地上の信者の体である教会、「神の家」をご自身の内に築かれることによって神に忠実に仕えられました。

-イエス様の「家」に対する警告。

第2章で著者は、イエス様から漂流することについての2回目の警告をしています。イスラエルの民は、モーセの声に

背を向け、エジプトに戻ることを要求しました（出エジプト記 17:1-7 を参照）。これは何度も繰り返された重大な逆行行為であり、最終的には第一世代のイスラエル人が神に裁かれ、荒野を 40 年間さまざまい、約束の地に入る権利を失いました（参照：民数記 10-14 章）。

警告文は、重要な条件で始まります：

もしわたしたちが、望みの確信と誇とを最後までしっかりと持ち続けるなら、わたしたちは神の家なのである。

（ヘブル人 3：6b）

私たちがキリストへの信頼と希望をしっかりと持ち続けるなら、イエス様の家の一員です（ヘブル人 3：3:14）。信者の救いと保証に関する同様の「条件節」には、二つの解釈があります。一つ目の解釈は、救いを維持するためには、しっかりと守り抜かなければならないという解釈です。しっかりと守り抜かなければ救いを失うという考えが含まれています。この見方では、救いは忍耐力に基づき、条件付きであり、さらに「信者の保証」の喪失へと繋がります。

2つ目の解釈は、私（ホブ牧師）の解釈でもありますが、この「しっかりと持ち続けるなら」とは、私たちが真の神の家の一員であるという証明、または証拠であるという解釈です。聖霊が私たちの内に住んでおられて、試練に直面しても耐え忍ぶ力を私たちに与えてくださっていること。この見方で

は、誰かが「キリストへの信頼と希望を放棄する」なら、それは最初から御霊が彼らの内に宿っていなかったという証拠です。そもそも彼らが実際に神の家の一員ではなかったことを意味します（参照：コロサイ 1：22,23; 1 コリント 15：1,2; そして最も明確に、1 ヨハネ 2:19）。この 2 つ目の見方は、この本を読み進む中で、他の難解な「警告」に遭遇する際に、再び説明します。

3:7 だから、聖霊が言っているように、「きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、3:8 荒野における試練の日に、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない。3:9 あなたがたの先祖たちは、そこでわたしを試みためし、3:10 しかも、四十年の間わたしのわざを見たのである。だから、わたしはその時代の人々に対して、いきどおって言った、彼らの心は、いつも迷っており、彼らは、わたしの道を認めなかった。3:11 そこで、わたしは怒って、彼らをわたしの安息にはいらせることはしない、と誓った」。（ヘブル人 3：7－11、詩篇 95：7－11 の引用）

ここの状況における信者の「読者」は、荒野の古代の会衆、神の道を知らなかった会衆の不信仰によって、神の約束の地に入り、神が与えてくださる安息を享受する権利を失ったときの二の舞を踏む危険にさらされていました。

-不信仰に対する継続的警告。

警告は、より深刻に継続します。人の心が「罪の不信仰によって頑なになる」危険があります。それに対する解決策は、「日々、互いに励まし合う」ことです(3:13)。

3:12 兄弟たちよ。気をつけなさい。あなたがたの中には、あるいは、不信仰な悪い心をいだいて、生ける神から離れ去る者があるかも知れない。**3:13** あなたがたの中に、罪の惑わしに陥って、心をかたくなにする者がないように、「きょう」といううちに、日々、互に励まし合いなさい。**3:14** もし最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けるならば、わたしたちはキリストにあずかる者となるのである。**3:15** それについて、こう言われている、「きょう、み声を聞いたなら、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない」。**3:16** すると、聞いたのにそむいたのは、だれであったのか。モーセに率いられて、エジプトから出て行ったすべての人々ではなかったか。**3:17** また、四十年の間、神がいきどおられたのはだれに対してであったか。罪を犯して、その死かばねを荒野にさらした者たちに対してではなかったか。**3:18** また、神が、わたしの安息に、はいらせることはしない、と誓われたのは、だれに向かってであったか。不従順な者に向かってではなかったか。**3:19** こうして、彼らがいえることのできなかったのは、不信仰のゆえであることがわかる。(ヘブル人3：12－19)

最後の句は重要です。彼らは不信仰のために(約束の地)に入ることができませんでした。心の信仰(信頼)と一致していなかったため、神のみ言は彼らに利益をもたらさなかったと著者が述べています(第4章2節)。旧約聖書の学びの際、イスラエルの民は不従順または、反逆のために入ることができなかったことを学びました。しかし、この本の著者の主張ははるかに奥深いです(また、新約聖書の救いの神学の重要な側面です)。確信は従順の実を生み出す根源です。一方、不信仰は不従順の実を生み出す根源です。 私たち人間が他の人々に見ることができるのは、彼らの人生の実です(従順さや不従順さ、キリストへの忠誠やキリストから漂流する様子)。しかし、神が見ておられるのは、これらの行動(確信または不信仰)を生み出す心です。 新約聖書の多くの箇所、信仰と行いの間の強い結びつきを教えているのは、これが理由です。ヤコブが簡潔に述べているように、「**2:17** 信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである。」あるいは、ヨハネが言うように、「**4:20** 「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見ている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。」。著者は、「信じる心の実」とは、状況に関係なく耐える「忍耐強い信仰」であると言っています。これが大いなる信仰の章(第11章)が全体的な議論にとって非常に重要となってくる理由です。地上

における人生で、何が起こったかに関係なく、心の信仰の現実の証拠を与えているのです。

神の「安息」に入るために信仰を持ち続け忍耐強くあるように警告。

旧約聖書の中のイスラエルの物語の中で、彼らは神が約束してくださった地に入って、与えてくださる「安息」を享受する権利を失いました。ヘブル人の手紙の中で、「安息」という考えは、神との交わりの比喻です。

4:1 それだから、神の安息にはいるべき約束が、まだ存続しているにかかわらず、万一にも、はいりそこなう者が、あなたがたの中から出ることがないように、注意しようではないか。**4:2** というのは、彼らと同じく、わたしたちにも福音が伝えられているのである。しかし、その聞いた御言は、彼らには無益であった。それが、聞いた者たちに、信仰によって結びつけられなかったからである。**4:3** ところが、わたしたち信じている者は、安息にはいることができる。それは、「わたしが怒って、彼らをわたしの安息に、はいらせることはしないと、誓ったように」と言われているとおりである。しかも、みわざは世の初めに、でき上がっていた。

(ヘブル人4：1－3)

3節では、「信じた」という動詞は過去の特定の時点の行動を示します。「入る」という動詞は、現在進行中のアクシ

ョンを示します。つまり、イエス・キリストに信仰を置くようになった私たちは、絶えず神との安息の状態に入っていると述べています。さらに、信者の「安息」は、この世の人生における神との継続的な交わりであり、次の世で神との究極の最後の交わりに繋がります。これは「イエス・キリストとの明確な個人的接触を経るようになった、神との交わりにおける魂の霊的安息」です(トーマス・ヒューイット、ティンデル へブル人への手紙の解説、p.92)。

複雑な議論が続き、著者は次の様に指摘します。神聖に与えられた「安息」は、ヨシュアの時代にイスラエルに与えられた「安息」(約束の地に入って、安定した生活を送る)以上のものでした。この解説者は、神の語る「安息」の概念は、イスラエル以前に、創世記の天地創造の7日目から存在してきたと指摘しています。「安息」の考えは、イスラエルが土地を占領した数百年後のダビデ王の時代に、神の民に与えられ、それが繰り返されるようになりました(詩篇95：7を引用して4：7)。したがって、「安息」とは、イエス様の和解の御業を通して神との交わりに入る人類への神の継続的な永遠の安息の比喻です。

4:9 こういうわけで、安息日の休みが、神の民のためにまだ残されているのである。**4:10** なぜなら、神の安息にはいった者は、神がみわざをやめて休まれたように、自分もみわざを休んだからである。**4:11** したがって、わたしたちは、この安息にはいるように努力しようではないか。そうでないと、同じよ

うな不従順の悪例にならって、落ちて行く者が出るかもしれない。（ヘブル人4：9－11）

彼らは神の安息に入っていることをどのように確認したのでしょうか？ キリストへの信仰を持ち続け、お互いに硬く編み込まれた交わりを保ち（10：24,25を参照）、状況に関係なく、お互いに信仰を堅持するように励まし合うことによってです。

神のみ言の力。

全体像を思い出してください。イエス様は、人類に対する神の最後の「み言」（啓示）の優れた「使徒」（御使い）です。要約すると、著者は読者に「神のみ言」（確かに生きているみ言、更に、書き記されたみ言）が人間の心の内面の考えや意図を識別する力を持っていることを思い出させます。神は、私たちの生活の外面的行動において、それほど心配しておられません。むしろ、心の状態により関心を持っておられます。

4:12 というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。**4:13** そして、神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない。

最初の4章の全体的な意図は次のように要約できます。

神の化身であられる息子なるイエス・キリストを通して人類に与えられた神の最後の最高の「み言」を無視してはいけません。「神のみ言」に怠慢になるなら、神が約束して下さった安息、つまりこの世界での神との交わりと次の世界での神との永遠の交わりに入ることができなくなります。

この本の次の部分で著者は、イエス様が私たちの優れた大祭司であることを詳細に説明します。

ディスカッションの質問

1. ここにはキリストの性質の優越性についてきわめて多くの陳述があります。イエス様について、新しく学ばれたことは何でしたか？
2. キリストの優越性の考えは、今日の生活（信仰や行い）にどのように当てはまりますか？
3. ヘブル人は、キリストから後退する危険性を強調しています。イエス様との歩みを強く保つために最も役立つと思うことは何ですか。
4. イエス様が、あなたが経験してこられたことのすべてに共感できる慈悲深く忠実な大祭司であるというのは、あなたにとってどのように慰められたかについて話してください。